

2025年度取り組みの色々な数値

総代会議案書の中から具体的な数値がわかるものを掲載しています。



▲佐賀関大規模火災支援募金へのお礼状

平和活動協力金	75,500円
被災地支援協力金	243,700円
ハンガー・フリー・ワールド	1,194,603円
岩手県大船渡市山林火災支援募金	2,232,347円
熊本県令和7年8月豪雨災害支援募金	7,849円
大分県大分市佐賀関大規模火災支援募金	379,242円
令和7年12月青森県東方沖地震に係る 県内被災者への義援金	242,406円

ユニセフ募金の合計(以下、内訳)	2,390,747円
OCR注文用紙での募金	1,303,200円
催事などでの現金募金	450,633円
宅配ポイントでの募金	9,217円
ハンド・イン・ハンド	89,748円
カレンダー募金	113,288円
ユニセフ・ミャンマー地震緊急募金	336,246円
自然災害緊急募金～アフガニスタン地震	201,703円



各種募金などの取り組みへのご協力・ご参加いただきありがとうございます。

終戦の日 特集

戦後81年目に知ってほしい戦争の歴史

バシー海峡と今も海底に眠る戦没者

青森空襲や沖縄戦、広島・長崎への原爆投下、レイテ、ラバウルなど、第二次世界大戦では国内外で多くの方が亡くなりました。終戦の日が近づくと特番やニュースなど様々な媒体でそのことが取り上げられます。しかしながら多くの戦没者がいながらも、あまり語られない「魔の海峡」と呼ばれた場所があります。今回は、いまだ多くの戦没者が眠る「魔の海峡」とよばれたバシー海峡に目を向けてみたいと思います。

バシー海峡は、日本の最西端与那国島からおよそ350kmのところにある台湾島とフィリピンのパタン島の間にある幅約150km、中央部の水深が1,500mある海峡です。現代では国際通信海底ケーブルが敷設され、海峡を様々な国の輸送船が行き交う南シナ海と太平洋を結ぶ国際的な要所です。

戦前は日本の領海で、この海峡を通して東南アジアから資源を輸送したり、日本から人員や武器を輸送したりしていました。そのため、太平洋戦争が始まると米軍の潜水艦が多数配備され、雷撃によって日本の輸送船が多く沈められました。そのことから、バシー海峡は「魔の海峡」「輸送船の墓場」と呼ばれていました。

「魔の海峡」「輸送船の墓場」と呼ばれたバシー海峡について、言及がある書籍として、戦中末期に代用燃料工場の技師としてフィリピンに派遣された小松真一氏の従軍記「虜人日記」。バシー海峡で輸送艦が撃沈されながらも12日間漂流し生き残り、戦後慰霊のために台湾の猫鼻頭（がらんび）に「潮音寺」を建てた中嶋秀次氏とバシー海峡で弟を失ったやなせたかし氏、二人の戦後の足跡を追ったノンフィクション「慟哭の海峡」が知られています。しかしながら、戦地に向かう途中の海峡ということから、主題材として扱ったまたは、深く言及した書籍が少なくそのことを知る機会も少ないです。

輸送艦には1隻に5000名～6000名が乗り込んでいたと言われています。200隻あまりの輸送船が撃沈され、撃沈された船から助かったのは1隻につき50名～60名と言われています。そのことから、バシー海峡での戦没者は少なくとも10万人、最大26万人で、多くの犠牲者がいまだこの海峡で眠っています。しかし戦後、他の戦地では国の慰霊祭が行われる中、全国各地にバシー海峡で亡くなった方の遺族、遺児がいましたが、長らく慰霊祭が実施されていませんでした。戦後70年を期に日本と台湾の有志による慰霊祭が「潮音寺」で実施されました。それを期に現在は年に一回、慰霊祭が実施されています。

もう80年以上も前のことで、継承の取り組みが行われることや特番、報道などで取り上げられる事柄は多くの方が知る機会があります。しかしながら、国内外様々な場所で悲劇がおこっており、気にしなければ知らないことが多くあります。この機会にこのようなことがあったということを皆様には少しでも知ってもらえればと思います。

